

目指す学校像	◆子どもたちが生き生きと輝く学校 ◆地域とともに発展する学校	◆教職員と保護者・地域がチームとなる学校 ◆職員みんなが力を発揮する学校
--------	-----------------------------------	---

重点目標	1 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)で実現させる学びの自律と個別最適化、探究化 2 一人ひとりの多様な幸せ(Well-being)を実現する未来の教育の実現 3 地域の高い教育力を生かしたコミュニティ・スクールの推進 4 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標								実施日令和6年2月5日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<p>〈現状〉</p> <p>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。</p> <p>○日頃の学習の様子から、学級には、様々な特性をもつ児童がいることから、学習指導上、誰一人取り残すことなく、きめ細かな指導が必要である。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○学級には、【浅い】理解から【深い】理解までの多様な児童がいる中で、特に習熟の差が生じやすい教科等において、個別最適な学びの実現に課題がある。</p> <p>○習得・活用の「活用」場面で、協働学習から学習の有用性を実感させ、学習意欲を向上させる必要がある。</p>	<p>・誰一人取り残さない多様な子どもの学びの充実</p> <p>・学びの自律化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善</p>	<p>①「焦点化・視覚化・共有化」の視点から授業改善を行う。</p> <p>②ドリルパークなどのICT教材を活用する。</p> <p>③学習活動の基盤となる読解力をはぐくむため、読書活動を推進する。</p>	<p>①1人1台端末を効果的に活用した授業を日常的に実践する。</p> <p>②「学びのポイント」(じしゃく)を活用した授業改善に取り組み、「探究的な学び」を実現する。</p> <p>③2年計画で大学から指導者を招聘し、指導を受けると共に、校長自ら先進的な事例を学び、教職員へ指導助言を行う</p>	<p>①「授業が分かりやすい」と回答する児童の割合が95%以上となったか。</p> <p>②ドリルパーク等、ICTを効果的に用いて学習指導が行えたか。</p> <p>③学校図書館での貸し出し冊数データを分析し、児童が日常的に読書に親しめたか。</p>					
2	<p>〈現状〉</p> <p>○不登校や不登校傾向の児童、様々な特性をもつ児童、様々な配慮を要する児童など、多様化している。</p> <p>○我が国の子どもに、エイジェンシーの育成が求められている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○様々なストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。</p> <p>○児童が他者と協働して、自分の考えや行動で、自身の生活や学校を少しでも変えようと行動する力(エイジェンシー)を育成することに課題がある。</p>	<p>・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実</p> <p>・エイジェンシーを育成する特別活動等の充実</p>	<p>①生徒指導委員会等において子どもの様子を全職員で共有し、ケース会議等組織的な対応の充実により、個に応じたきめ細やかな支援を行う。</p> <p>②子どもにとって学校の一番の居場所は「担任の懐」であることを肝に銘じ、教育愛溢れる人間教育を実践する。</p>	<p>①自分たちの学校生活を見つめ直し、潤いある豊かな学校を自分たちの手で実現させていく自治的活動を行う。</p> <p>②日進七夕まつりへの取組を教師主導から子ども主体の活動に転換していく。</p>	<p>①情報共有・共通理解を図った子どもについて、生徒指導主任・教育相談主任・特別支援教育コーディネーターが中心となり、担任のみに抱え込まず、組織的な支援が日常的に実践できたか。</p> <p>②児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。</p>					
3	<p>〈現状〉</p> <p>○登下校の見守り活動や、チャレンジスクール等の学校支援活動など、自治会・育成会・PTAを中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域学校協働活動が充実している。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○つばさ小学校の子どもたちに「付けたい力」を、全児童・保護者・地域と共有し、さらに、実現に向けた具体的行動を起こす。</p>	<p>・保護者・地域との連携、協働による「付けたい力」を育成する教育活動の展開</p> <p>・故郷を愛し、未来の地域社会の担い手となる子どもの育成に向けた取組の充実</p>	<p>①「付けたい力」「保護者・地域の役割と具体的な取組」を、全児童・保護者・地域と確実に共有する。さらに、活動推進のため、学校HP「コミスクのページ」を充実・深化させる。</p> <p>②学校運営協議会に児童が参画する場を設け、大人と共に協議し取組を行う。</p>	<p>①地域人材や地域の文化・学習材など、児童の故郷に係る教育活動を教育課程に位置付け、21世紀型スキルを育成する。</p> <p>②校長自身が地域を愛し、地域から学び、子どもたちへ発信していく。</p>	<p>①学校HP「コミスクのページ」や、「学校だより」等を通じて、取組状況が周知され、保護者・地域の日常的な取組に生かされたか。</p> <p>②「子どもが主役」となるコミュニティ・スクールの在り方に迫ることができたか。</p> <p>①4月末日に市教委へ提出した本年度の教育課程を改善・充実させていくことができたか。</p> <p>②校長が地域とのコミュニケーションを大切にし、地域から学んだことをつばさ小の子どもたちに還元できたか。</p>					
4	<p>〈現状〉</p> <p>○新たな学びのスタイルの中心となる、1人1台端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。</p> <p>○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができてきた。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○1人1台端末の効果的な活用について、定期的に情報交換を行い、学級差を生じさせない取組が必要である。</p> <p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に課題がある。</p>	<p>・学校職員一人ひとりが力を発揮し、子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の実施</p>	<p>①全ての教員が授業改善に取り組み、学期に1回以上、授業を公開する。</p> <p>②1人1台端末を効果的に活用する指導方法について、定期的に全職員で学ぶ。</p> <p>③「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を適切に行い、教職員の資質向上を図る。</p> <p>④令和7年「関東ブロック授業公開校」として、学校課題研修に全職員が一丸となり取り組んでいく。</p> <p>⑤「授業力ある伝統校」を築き上げていく士気を高める「パーパス」「バリュウ」を、全職員が自らの胸に刻み、子どもたちの幸せを実現していく。</p>	<p>①全ての教員が1人1台端末を効果的に活用した【授業改善】に取り組み、学期に1回以上、授業を公開し、学習指導力の向上が図られたか。</p> <p>②1人1台端末を活用した指導について、teamsを用いて日常的に情報交換ができたか。</p> <p>③校長自ら学び、先進的な情報を集め、学校内で共有を図るなどを通して、教職員の資質向上が図られたか。</p> <p>④11月プレ校内大会で、一定の成果を挙げることができたか。</p> <p>⑤全職員がつばさ小を誇りに思い、自己研鑽への志をもち続けられたか。</p>						

